http://nishitokyo.seikatsusha.net/

市民が育てる 東京・未来 西東京

生活者ネットワークの活動リポート NO.78

市議会議員　大友 かく子

市議会議員　石田 ひろこ

発行者／西東京・生活者ネットワーク　電話／042-453-4121
発行責任者／清水 浩子　発行日／2013年2月5日
〒202-0015 西東京市保谷町6-25-1-102
FAX／042-410-0014　E-mail／nishitokyo@seikatsusha.net

市民と行政の協働推進に向けて

西東京市の現状と課題～生活者ネットの独自調査から～

西東京・生活者ネットワークは、環境、福祉、子育てなどの地域の多様な課題を解決し、地域を豊かにするため、市民参加型社会の構築を目指してきました。市民と行政の協働推進はその要です。生活者ネットは、協働推進や豊かな市民活動のため、市民協働推進センター「ゆめこらぼ」への評価と課題、行政に求めることなどを、市内の市民活動団体にアンケート調査を行いました。頂いた意見は膨大で、以下にその一部を報告します。

ゆめこらぼ 情報交換機能などに評価

団体間で情報交換ができたことを評価する団体が多く、協働に発展した事例もありました。

「ゆめこらぼ」からの情報提供で被災地支援ができたなど、情報提供を評価する声がある一方、ニーズに合わせてアレンジした情報の提供を求める声もありました。

NPO講座も役に立ったとの意見がありましたが、さらに分野別、レベル別の講座が望まれています。

利用者には評価は高いのですが、利用に偏りがある、市民に認知されていないなどの問題点が明らかになりました。

生活者ネットの提案で2009年3月に発足した市民協働推進センター「ゆめこらぼ」

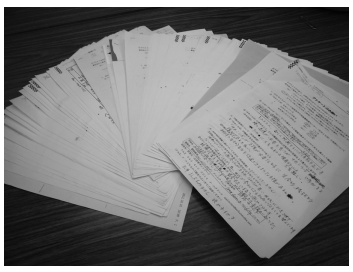
入口がわかりづらいとの指摘があった

職員は「市民と行政の協働」への理解を

一番多かった行政への要望は、協働、市民活動への理解、職員研修の充実です。「ゆめこらぼ」の職員には、専門性を持って団体間をコーディネートすることなどを求めています。

市民活動から見えてきた課題を行政につなげたくても、縦割り行政でつなげられない現状で、市民力をいかした市政のため、市民活動と行政の橋渡しができる職員の配置の必要性などがみえてきました。

「豊かな市民活動は西東京市政にとっての財産」という認識を共有したいものです。



調査期間：9月～11月
依頼団体数：87件
回収団体：41件、内21件は対面による聞き取り。

[質問内容抜粋]
- ○人と情報が集まりつながり支える場として「ゆめこらぼ」が機能しているか
- ○「ゆめこらぼ」に求めること
- ○どんな機能が活動を豊かにするか
- ○「ゆめこらぼ」が機能するために行政がすべきこと
- ○市民活動促進のため行政に求めること
- ○活動上の悩み
- ○どんな制度や支援があれば活動しやすいか

市民活動を促進する制度設計

活動の悩みで多かったのは、資金不足です。

前政権の成果としてNPO法と寄付金税制の改正があります。三千円の寄付者を百人集めれば認定NPOになれ、市独自の条例でこの条件を緩和することも可能となりました。また寄付者に税金の戻りが増える税改正は寄付を誘導します。これらの画期的な制度でNPOの資金確保が期待されています。

すでにある「協働の基本方針」で基本計画を作成するとされ、その実施を求める声も重要な指摘としてありました。

調査活動をもとに政策提案を行うことは、生活者ネットの基本です。今年は、多様な団体からの様々な意見を議会質問、提案などにつなげていく予定です。

柳泉園組合放射性物質測定状況見学

放射線量の測定状況の確認のため、柳泉園組合の見学に行きました。

測定場所の煙突の中間地点、36メートルの高さにある踊り場まで、階段を上っていきました。排気塔に穴があり、そこから内部の空気を採取して測定していました。放射性物質の測定は月1回、ダイオキシンの測定も月1回別の日に行われているそうです。アスベストは、被災地の瓦礫受け入れの際に測定したが不検出、その後測定していないそうです。測定結果は、ホームページ、ニュースなどで見ることができます。

放射性物質測定についての説明のあと、焼却炉を見学しました。

一番びっくりしたのは、もやせるごみの中に燃やせないごみが、全体の1割も入っているという事実！もう一度、分別の徹底を呼びかけていかなければならないと思いました。

空間放射線量を事務所前で毎月測定しています。

空間放射線量測定結果（保谷小前交差点、地上1m）

日付	測定値	状況
11月16日（金）13時	0.07マイクロシーベルト	くもり
12月21日（金）13時	0.08マイクロシーベルト	くもり
1月18日（金）13時	0.07マイクロシーベルト	晴天、北風強い大雪のあと

空間放射線量測定器貸し出します。
事務所042-453-4121にご連絡ください。

街角 「緑町マリーナ」 ～ハンディを抱えながら舵をとる人を応援する場として～

http://marina.life.coocan.jp/

緑町マリーナは2006年3月に開設した知的障がい者のグループホームです。入居者は6名でその他に常勤スタッフが2名と非常勤の生活支援員が7名います。

緑町マリーナは、生活の場としてだけではなく、バーベキューや誕生会など、年間にたくさんのイベント（余暇活動）を行っています。それは一般の方と同様に、余暇活動の充実が生活の質を高め、就労を定着させ、ひいては生きる喜びにつながるからです。消防署と合同避難訓練も行い、災害に備えています。また、地域の方と交流し、理解をしていただくために、六周年の記念イベントには、落語家さんを呼び近隣の方をご招待しました。これからも、入居者の気持ちに寄り添う支援を行うと共に、近隣の理解が深まるような事業をしていきます。

特定非営利活動法人
地域福祉研究所 緑町マリーナ　代表者 角田勇

生活者ネットワークの活動リポートは年4回発行しています。

活動リポートは現在、ボランティアの皆さんの協力で市内全域にお届けしています。マンションなどで「チラシ配布お断り」「部外者立入禁止」などの表示がありお届けできないお宅がどんどん増えています。事務所042-453-4121にご連絡いただければ、毎回確実にご自宅までお届けします。お気軽にご連絡をお待ちしています。（FAX・E-mailでも可）